

平成 28 年度 英語科研修会 活動報告書

1. 目 標 「グローバル人材育成のための英語教育プログラム」
2. 日 時 平成 29 年 1 月 26 日 (木)
3. 会 場 静岡県私学会館 5 階大会議室
4. 参加者 37 名
5. 日 程
13:00~13:15 受付
13:15~13:25 開会
挨拶 英語科専門部会 部会長 谷野 純夫
(常葉学園中学・高等学校校長)
13:25~13:55 研修 I 「英語で行う英語授業」
海野 茜 (常葉学園中学・高等学校教諭)
14:00~14:50 研修 II
講話「TEP (Tokoha Exchange Program) の目指すもの」
ジャネット 小山 (常葉学園中学・高等学校 A L T)
14:50~15:20 指導講評 「これからの英語教育」
~英語教育改革、入試改革等について~
塚本 裕之 (静岡県総合教育センター 総合支援課高校班 指導主事)
15:20~15:25 閉会

6. 内 容

<開会> 英語科専門部会 部会長 谷野 純夫 先生 (常葉学園中学・高等学校校長)

グローバルな人材とは以下の 3 点を備えている人である。

- ①コミュニケーション能力・語学力
- ②積極性・柔軟性
- ③日本人としての identity をしっかり持っていること

グローバル人材の育成に必要なものは以下の 2 点である。

- ①教員の英語力向上
- ②留学の促進 (受け入れと送り出し)

今回の研修をグローバル人材育成のために役立ててほしい。

<研修 I > 英語で行う模擬授業 海野 茜 (常葉学園中学・高等学校教諭)

【Everyday Speaking Activities】

Aims of the Activities

1. To develop students' speaking skill
2. To develop students' positive attitude toward communication in English

1. To Get Know Each Other : Step1

ペアになり、What's your name? / What high school do you go to? などの質問・返答を交代で行った。

2. To Get To Know Each Other : Step2

Where are you from? / What school club do you belong to? などの質問を用いて、質問・返答を交代で行ったが、Step1とは異なり extra information や tag question を追加した活動であった。

3. Free Chatting

1 分間で Question→Answer + Extra Information→Reaction + Tag Question→Answer + Extra Information の活動を行った。質問例として What did you do last night? が挙げられた。

4. Demo Class : 1-minute Story Telling

- Give each student a picture card. The picture is important to you.
- Tell a story about it to a partner for one minute. You can create a story.
- The partner guesses what is on the picture.

参加者に 1 枚ずつ絵が印刷されたカードを配った。自分のカード (絵) について英語で説明をし、パートナーがその絵が何であるかを当てるといった活動であった。

Usual Class : 1-minute Show&Tell

- Each student brings something which he/she wants to talk about.

生徒が好きな物を持ってきて、その物について英語で説明をするという活動の紹介があった。

5. 最後に

tag question などを用いて積極的に活動している。2 年生になると、Free Chatting の活動を導入し、お互いに自分の好きな物を伝え合うという活動を授業開始の 5 分で行っている。これらの活動は、英語力だけでなく意欲的な態度育成が目的である。

<研修Ⅱ> 講話「TEP (Tokoha Exchange Program) の目指すもの」

ジャネット 小山 (常葉学園中学・高等学校 A L T)

常葉学園中学・高等学校の TEP (Tokoha Exchange Program) について例を示しながら説明があった。留学を通して身に付けられるものとして「異文化理解・コミュニケーション能力・英語力・実行力・主体性」などが挙げられた。留学のメリットとしては「人間的な成長を期待できる・将来の国際交流の活動の場となる・英語運用能力が高まる」などの要素が示された。デメリットとしては「日本の学校で授業が受けられない・大学受験のための準備期間が短い・留学先の学校によっては学費が掛かる」などが挙げられた。

TEP (Tokoha Exchange Program) が現在留学先として提携しているのはアメリカのネブラスカ州オマハ市にある学校である。キャンパスが広いので校舎は 1 階建てで、車で通学する生徒が多いということは日本の学校とは大きく異なる点である。TEP (Tokoha Exchange Program) では、留学の 10 ヶ月間ホストファミリーと過ごし様々な体験を共有することができる。自国のことをよく知らない生徒が多いが自ら学び、書道やお茶会などを通じて日本の伝統・文化などを伝えている。現在は 2 名の生徒がこのプログラムに参加中で、毎月日本の学校へレポートを送ってくるが、その度に成長が感じられる。プログラ

ム開始から 10 年が経った今思うことは、「日本で通用しないことは外国で通用しない。日本でできないことは外国でできない。日本語で言えないことは外国語で言えない」ということである。今までに 20 人がこのプログラムを修了したが、ちょっとした苦勞が生徒の人格を形成し、道具である英語を使って心を発展させることができると考えている。また、自国のことを知らなければ互いを理解することは難しいため、真のグローバル人材育成のためには自国について知ることが大切である。

講話の最後には、ジャネット先生の母親が戦時中に体験した日系人収容所での出来事などの話があり、その体験から感じたことも伝えられた。

<指導講評> 静岡県総合教育センター 総合支援課高校班 指導主事 塚本 裕之

目標設定と学習活動に関して、CAN-DO リストが実際に使われていないという問題があった。問題解決のためには尺度が必要であるため、CEFR（ヨーロッパ共通参照枠）の CAN-DO リストの尺度を用いて各学校の CAN-DO リストを設定することにした。英文法を教える順番についての検討があった。英文法を教える順番に関しては教員の中にある程度の共通枠があるが、リーディングについてはあまり基準がないのではないかという説明があった。そこで静岡では新しい CAN-DO リストを作り具体的な活動は各学校に検討してもらうことになったということだった。最後に演習を通じて CEFR のレベルを確認する活動があった。

<閉会> 英語科専門部会 部会長 谷野 純夫（常葉学園中学・高等学校校長）

普段自分が考えていることと少し異なる観点から話を聞き、感覚のズレを修正していく機会につながることを期待している。

（記録：日本大学三島高等学校・中学校教諭 関根 浩子）